

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472301066
法人名	オセアンケアワーク株式会社
事業所名	ハーティ オセアン小田原
訪問調査日	平成19年12月5日
評価確定日	平成20年1月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 1月31日

【評価実施概要】

事業所番号	1472301066		
法人名	オセアンケアワーク株式会社		
事業所名	ハーティ オセアン小田原		
所在地	250-0217 小田原市別堀85 (電話) 0465-42-4536		
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成19年12月5日	評価確定日	平成20年1月31日

【情報提供票より】(平成17年 9月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成	17年 9月 1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 8 人
職員数	8 人	常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 3.1 人

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	60,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1150 円			

(4)利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	7名	男性	4名	女性	3名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83歳	最低	75歳	最高	90歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	マナクリニック、西本歯科、小澤病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体は横浜の建設会社であり、オーナーはその会社の役員である。オセアンケアワークとしてはこの小田原の他に箱根の強羅にも1つグループホームを持っている。この建物は高齢者共同生活用として建築されたものを譲り受け改良したもので、居室個々にトイレと飾り棚を持つゆったりとした作りとなっている。飾り棚は元炊事設備であったがグループホームでは認められないので下駄箱と飾り棚となり、自分の城を主張して良い。ここでは設立当初より職員個々の意見を尊重し、得意分野を活かす体制が定着しており、お互いの信頼感強い。利用者さんに対しては、残りの人生を自分の意思を尊重した形で過ごしてもらいたいと考え、現状維持に満足せず、利用者さん本位のケアに努めていることが利用者さんの表情に表れている。毎日の生活は「家」であるので出社・退社の時に「行ってらっしゃい」「お帰りなさい」と言う言葉が普通に出る生活が定着している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では特に指摘事項は無かったが、この特長である、家族も含めたイベントの強化を考え、年間を通じて取り組んだ。具体的には、大きなものとして夏の納涼祭、年末の行事を中心に、誕生日会などにご家族と一緒に歌って、食べて楽しく過ごすことを年間を通じて実施してきた。利用者さん、ご家族とも喜んでいたので今後も続けて行く予定である。但し、ADLの低下は否めず、今後更なるレクリエーションの向上のため社用車の変更も検討中である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価については、自己評価表を各職員に配布して意見を出してもらい、それを管理者が纏める形で作成した。職員は事前の自己評価により、評価の意義は充分把握している。評価での指摘やプロセスでの気付きについてはホーム内で問題点を抽出し、改善策を立てて改善に取り組んで行くことにしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議については現在、準備の段階である。但し、地域との連携は地元の大家さんの協力もあって良好で、自治会長さんも民生委員の方もご近所に住んでいて交流もある。小田原市との関係では地域包括支援センターに声をかけ開催に向けた準備を進めることにしている。地元とのお付き合いが深く、福祉に理解のある大家さんの協力を頂き円滑に開催出来るよう考えている。小田原市にグループホーム連絡会が出来、他のグループホームの情報も1~2聞くことが出来たので参考にしながら行政へも相談して行く予定である。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居に際しては長谷川式スケールなど科学的な手法も活用し、アセスメントを入居時、入居後重点的に行うようにしている。アセスメント表は項目が整理され、重要項目が分かり易い形で組み込まれたものを作成し活用している。アセスメント表は充分ケアに役立っている。ご家族は前述のように家族ぐるみのお付き合いがあり、ご家族は良く来訪される。利用者さんの状況は来訪時に身体の日頃の変化や生活の様子を具体的に報告し、また電話でもお知らせしている。ご家族の相談等には充分応えるようにしている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>小田原地区に於けるグループホーム連絡会の設立に関与し、この度、1月に議題を話し合う1回目の連絡会を行う下打ち合わせを完了した。県西部地域ではグループホームの交流の機会が少なかったため、この連絡会の設立により地域の連帯に期待が持てる。近隣との関係は良好であり、散歩の時などに挨拶を交したり、自分の畑で出来た野菜・果物などを頂いたりといった関係が構築されている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	スタッフは入居者を家族の一員として迎え入れ、「その人らしく、自分らしく」生活して頂けるよう、そして家族で生きる楽しみや喜びが見つけられるように支援できるようにすることを理念としている。地域との密着は既に図っているが、今後は地域に貢献出来るようなホームを目指して行く。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者を中心とした生活を送っている。特にスケジュールは無く、その日に利用者とのコミュニケーションの中で行える事を共に行えるようにしている。職員はそれを理念として実践している。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動への参加(民生委員を通じた老人会への参加)やグループホームの連絡会に参加を行っている。グループホーム同士の連携をもっと密に図っていきたいと考え、事業者同士が連携して活動できるようなネットワークを構築し、活動を始めたところである。		今後も継続して実施して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、自己評価表を各職員に配布して意見を出してもらい、それを管理者が纏めた。職員は事前の自己評価により、評価の意義は充分把握している。評価での指摘やプロセスでの気付きについてはホーム内で問題点を抽出し、改善策を立てて改善に取り組んで行くことにしている。		今後も継続して実施して行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については現在、準備の段階である。但し、地域との連携は地元の大家さんの協力もあって良好で、自治会長さんも民生委員の方もご近所に住んでいて交流もある。小田原市にグループホーム連絡会が出来、他のグループホームの情報も1~2聞けることが出来たので参考にしながら行政へも相談して行く予定である。		グループホーム連絡会を通じて他の事業者の業務やサービス内容の情報交換をしていき、それを運営推進委員会として実施していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	小田原市にはいろいろ相談をしている。地域包括支援センターは曾我病院内にあり協力的である。グループホーム連絡会を通じて、他のグループホームとの連携も深まっている。		グループホーム連絡会を通じて他の事業者の業務やサービス内容の情報交換をしていき、それを運営推進委員会として実施していきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族には家族ぐるみのお付き合いがあり、ご家族は良く来訪される。利用者さんの状況は来訪時に身体の日頃の変化や生活の様子を具体的に報告し、また電話でもお知らせしている。ご家族の相談等には充分応えるようにしている。時々の写真をホーム内掲示するようにしている。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在まで不満、苦情等は特に無い。行事等でのアイデア意見などはこちらから尋ねる事もあり、ご家族から意見をもらって取り入れたりしている。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	特に大きな異動等は行っていないため問題は無い。		今後も継続して実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々に資格取得のための勉強を行ったり、定期的に研修の参加している。		今後も継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年の行事には他グループホームの方にも参加して頂く事が出来た。またグループホーム間の職員の集まり意見交換などの機会も始まり今後のサービスの質の向上に役立つと期待している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	急に行うのではなく、徐々にコミュニケーションを取りながらサービスを行っている。見学等も受け入れている。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員という壁を作らず、みんなが家族という基本理念を基に生活している。		今後も継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的には自由に過ごしていただいている。あまり利用者からの声が出ていない。また帰宅願望については個別に異なり、検討が難しい。利用者や家族から常に何を行いたいかを聞いて、日常生活に取り入れて行きたい。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居に際しては長谷川式スケールなど科学的な手法も活用し、アセスメントを入居時、入居後重点的に行うようにしている。アセスメント表は項目が整理され、重要項目が分かり易い形で組み込まれたものを作成し活用している。アセスメント表は充分ケアに役立てている。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現状ではデイやショートの取り扱いは無いが、医療、地域包括支援センター、行政との関係で利用者や地域の方々に手助けをするように勤めている。		今後も継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1度提携病院(マナクリニック)からの往診があり。その都度体調に変化のある方を中心に診察していただいている。また急変時は電話やFAXを利用し、服薬等の支持をしていただいたり、場合により往診して頂いている。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	基本的に医師の診察によりグループホームで暮らしていけるかの相談をし、病状に変化が見られた場合は医師の指示をあおぐ。その結果によりご家族様と話し合い、納得された上で方針を検討している。		グループホームで行ってよいケアの範囲(医療行為)の基準があり、ターミナル期は特に家族、医療との三者の話し合いで個別に方向を決めることとしている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	性格が様々で、すぐ機嫌をそこねてしまう方や、とにかく話を聞いてほしい方等が暮らしている為、その人にあった声かけや対応を心がけている。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ本人のペースに合わせたり、声かけをして活動を促すが、生活のパターンが決まっており、要望もほとんど出ない。職員に余裕のあるときにはなるべく外に誘い、気分転換を図れるよう心がけている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備はできる方のみ行っている。(配膳、下膳、盛り付け、野菜切り等)。男性はほとんどおこなっていない。主にテーブル拭き等は声かけにて行っていただける。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間は特に決めていない。ある程度は自由に入れるようにしているが、入浴嫌いな方が多く、必要に応じて声かけや誘導をすることで入浴していただくことがある。また身体を動かす事を嫌う利用者には、リハビリの一環として入浴を勧めている。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手芸や歌、園芸などの活動を提供しているが、入居者のレベルや性格により長続きしない事が多い。入居者からの要望があればその都度、出来る範囲で対応をしている。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や外出など、定期的に外へ行く機会を作っている。強羅の施設への温泉も利用している。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の方の中には離設してしまう方も居られる為、通常はなるべく鍵をかけないが、受診等で職員が少なくなる場合は危険防止の為、鍵をかけている。ご家族の了解は得ている。		今後も工夫しながら試行を続けて行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防の立会いの下、消防訓練を行う予定にしている。		後日実施予定。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ひとりひとりに合った食事の形態(キザミ食、ミキサー食)やトロミを付ける等、摂取しやすい工夫を行い、なるべく本人が自分で安心して食べられるように支援している。夜間はなるべく補水を行い、脱水にならないよう注意している。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を置いたり、近日に行ったイベント等の写真を貼ることで季節感を味わっていただいている。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になるべく自宅で使用していた筆筒や使い慣れているものを持ち込んでいただいている。		今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	ハーティ オセアン小田原
所在地 (県・市町村名)	250-0217 小田原市別堀85
記入者名 (管理者)	中澤 毅
記入日	平成 19 年 11 月 30 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	スタッフは入居者を家族の一員として迎え入れ、「その人らしく、自分らしく」生活して頂けるよう、そして家族で生きる楽しみや喜びが見つけられるように支援できるようにすることを理念としている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者を中心とした生活を送っている。特にスケジュールは無く、その日に利用者とのコミュニケーションの中で行える事を共に行えるようにしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域活動への参加(民生委員を通じた老人会への参加)や散歩、外出をした際に話をしている。家族の面会時に他の入居者ともコミュニケーションを図られている。		家族の面会のある家庭に限られている。面会にもっと来て頂けるよう家族参加のイベントをもっと考えて生きたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	外掃除の時などは近所まで行うようにしている。その時や散歩時に近隣の人には挨拶をしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動への参加(民生委員を通じた老人会への参加)やグループホームの連絡会に参加を行っている。		グループホーム同士の連携をもっと密に図っていき、事業者同士が連携して活動できるようなネットワークを構築していきたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域活動への参加(民生委員を通じた老人会への参加)やグループホームの連絡会に参加を行っている。</p>	<p>グループホーム同士の連携をもっと蜜に図っていき、事業者同士が連携して活動できるようなネットワークを構築していきたい。</p>
---	---------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>外部評価を期に改めて業務の見直し、改善点を見出していきたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		<p>グループホーム連絡会を通じて他の事業者の業務やサービス内容の情報交換をしていき、それを運営推進委員会として実施していきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		<p>グループホーム連絡会を通じて他の事業者の業務やサービス内容の情報交換をしていき、それを運営推進委員会として実施していきたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在対象者がいない。</p>	<p>今後の対応の為、学習していく機会を作りたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待はない。</p>	<p>利用者と個々に話をする時間をもうけ、虐待に繋がる事の無いよう今後も対応していく。</p>

項目

取り組みの事実
(実施している内容・実施していない内容)

(○印)

取り組んでいきたい内容
(すでに取り組んでいることも含む)

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する方の立会いの下、家族との契約を行い、重要事項の説明等も行っている。お互いに納得した上で契約書にサインを頂いている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応の窓口を設置している。		現在苦情は出ていない。でた場合は緊急にミーティングを行い、対応していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時にお話をしたり、時々写真の写真をホーム内掲示することにより伝えていきます。必要に応じて電話も行っています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在まで不満、苦情等は特に聞かれていません。行事等でのアイデア意見などはこちらから尋ねる事もあり意見をもらったり取り入れるよう心掛けています。		不満、苦情などがあればミーティング等を行い反映させて行かなければならないと思います。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度ミーティングを行うようにはしています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	病院受診(家族が付き添えない)も含め、行事等では人員の確保、調整を行っています。その他必要に応じて行える。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	特に大きな変化を行っていないため問題なく過ごせています。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員個々に資格取得のための勉強を行ったり、定期的に研修の参加も行っています。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>今年の行事には他グループホームの方にも参加して頂く事もできました。またグループホーム間の職員の集まり意見交換などの機会も始まり今後のサービスの質の向上に役立っています。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>行事等に職員の家族も参加したり、子供を連れて来ることにより利用者の刺激に繋がったり職員家族の気分転換にもなっている。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員個々に自分の持ち味を活かしつつ楽しめる職場を開所当時から心掛け行っています。</p>		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談をよく聞く機会をつくり受け止める努力をしています。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面会時に、ご家族様の話を聞き受け止める努力をしています。</p>		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>まず必要としている支援を考えて様々な側面からの支援が出来る様に努力しています。</p>		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬように馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	急に行うのではなく、徐々にコミュニケーションを取りながらサービスを行っています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員という壁を作らず、みんなが家族という基本理念を基に生活しています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族を含めたグループホームでの家族として面会時、行事等も喜怒哀楽を共にしています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	個々の家族間ごとに考え対応しています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブをしながら馴染みの場所、自宅近くを通って話を引き出したりしています。		どうしても人となると、相手から訪ねて頂くほかは無いと思います。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	リビングにて一緒に過ごす時間を作ったり掃除、レクリエーションや行事などを通し家族として生活できるように努力しています。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者には、今のところ該当者がいませんが、ご家族様はその後、花を植えるに来て頂いたり、手作りケーキを作ってきて頂いたり付き合いをさせて頂いています。これからも、つきあいを大切にしていきたいです。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的には自由に過ごしていただいている。あまり利用者からの声が出ていない。また帰宅願望については検討が難しい。		利用者や家族から改めて何を行いたいかを聞いて、日常生活に取り入れて行きたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本的には自由に過ごしていただいている。あまり利用者からの声が出ていない。また帰宅願望については検討が難しい。日々の生活の記録や外出レク等の記録はとっている。		利用者や家族から改めて何を行いたいかを聞いて、日常生活に取り入れて行きたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	基本的には自由に過ごしていただいている。心身の状態に依拠しての生活レベルは把握しているが、依存心が強かったり、拒否が見られるため困難な場合がある。		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	基本的には自由に過ごしていただいている。あまり利用者からの声が出ていない。また帰宅願望については検討が難しい。		利用者や家族から改めて何を行いたいかを聞いて、日常生活に取り入れて行きたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には自由に過ごしていただいている。あまり利用者からの声が出ていない。また帰宅願望については検討が難しい。		利用者や家族から改めて何を行いたいかを聞いて、日常生活に取り入れて行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録をとり、申し送りを活用する事により情報の共有を図っている。	ケアマネが不在な時のケアプランはある程度他の職員が立案し、情報の共有等も行っている。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	何かのレクリエーションを行う場合には家族へ連絡し、同意を得ている。外出、外泊の対応も家族と相談し、行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防や警察は必要に応じて連絡をとり、主に緊急時に備えている。対象の利用者は民生委員を通じて、地域活動も行っている。		地域活動に参加できる利用者が限られている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	おおまかな施設での問題や相談業務はグループホーム連絡会を通じて行い始めている。		グループホーム連絡会を通じて、今後検討していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特に対象者がいない。		今後の対応の為、学習していく機会を作りたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1度提携病院(マナクリニック)からの往診があり。その都度体調に変化のある方を中心に診察していただいている。また急変時は電話やFAXを利用し、服薬等の支持をしていただいたり、場合により往診して頂いている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	週に1度提携病院(マナクリニック)からの往診があり。その都度体調に変化のある方を中心に診察していただいている。また急変時は電話やFAXを利用し、服薬等の支持をしていただいたり、場合により往診して頂いている。		
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に1度提携病院(マナクリニック)からの往診があり。その都度体調に変化のある方を中心に診察していただいている。また急変時は電話やFAXを利用し、服薬等の支持をしていただいたり、場合により往診して頂いている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院をしても2ヶ月間は契約が切れる事はない。その間に病院と連携を図り、退院後もグループホームで生活出来るレベルなのかそうでないのかを早い段階から判断し、対応をしている。		入院したまま戻ってこないケースがまだ無い為、その後の対応について他の医療機関や施設との連携をしっかりと作っていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	基本的に医師の診察によりグループホームで暮らしていけるかの相談をし、病状に変化が見られた場合は医師の指示をあおぐ。その結果によりご家族様と話し合い、納得された上で方針を検討している。		グループホームで行ってよいケアの範囲(医療行為)の基準があまり定まっていない。出来る事、やってよい行為、禁止されている行為の境目が明確ではない。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	基本的に医師の診察によりグループホームで暮らしていけるかの相談をし、病状に変化が見られた場合は医師の指示をあおぐ。その結果によりご家族様と話し合い、納得された上で方針を検討している。ADLの低下といった介護の面だけではレベルが低下しても、ある程度は行える体制をつくっている。		グループホームで行ってよいケアの範囲(医療行為)の基準があまり定まっていない。出来る事、やってよい行為、禁止されている行為の境目が明確ではない。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居の前に必ず、本人とご家族様で見学を行い、本人の同意を得て入居して頂いている。またすぐに入居ではなく一週間ほどホームでの体験をして頂き、実際に生活をして頂いてから改めて本人の意思や病状の確認等を行い、本入居という形をつくっている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	性格が様々で、すぐ機嫌をそこねてしまう方や、とにかく話を聞いてほしい方が暮らしている為、その人にあった声かけや対応を心がけている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	1対1になる時間(入浴中や居室で過ごされている時間)を利用し、集団の中で話しづらい事や言い出しにくいこと、個人的な事等を聞く時間をもうけ、出来る限り不安を解消し、快適に暮らしていけるよう支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ本人のペースに合わせてたり、声かけをして活動を促すが、生活のパターンが決まっており、要望もほとんど出ない。職員に余裕のあるときにはなるべく外に誘い、気分転換を図れるよう心がけている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	強羅の資格を持っている職員が定期的に散発を行っている。洋服等は自分で選んだり、利用者の好みで選んで着用して頂いている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備はできる方のみ行っている。(配膳、下膳、盛り付け、野菜切り等)。男性はほとんどおこなっていない。主にテーブル拭き等は声かけにて行っていただける。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、たばこはホームで禁止している。病状等により禁止されている方がいられる、火災の防止、生活保護のお金の問題等がある為、共通している。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	体調によってオムツを使用することもあるが、尿意や便意のある方は、本人の訴えや声かけにてなるべくトイレで排泄が行えるよう支援している。落ち着かない等の行動が見られる利用者は、その行動に合わせて声をかけている。		
	○入浴を楽しむことができる支援	入浴日や時間は特に決めていない。ある程度は自由に入れ		

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	るようにしているが、入浴嫌いな方が多く、必要に応じて声かけや誘導をすることで入浴していただくことがある。また身体を動かす事を嫌う利用者には、リハビリの一環として入浴を勧めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	特に生活の中で決められた事をするということも無く、入居者様の気分でリビングにいたり、居室でのんびりと一人の時間を過ごしていただいている。		

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手芸や歌、園芸などの活動を提供しているが、入居者様のレベルや性格により長続きしない事が多い。		入居者様からの要望があればその都度、出来る範囲で対応をしていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を利用できる入居者様がない。必要に応じてホームで立て替えている。会計は職員が行っている。		対象となる入居者が入り次第、検討。認知の程度によりトラブルにならないよう対応していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や外出など、定期的に外へ行く機会を作っている。強羅の施設への温泉も利用している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	買い物や外出など、定期的に外へ行く機会を作っている。強羅の施設への温泉も利用している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に電話をかけたいという訴えは無い為、使っていない。手紙は掛ける人のみご家族様へ書かれる事はある。		対象はいないが、むやみに家族以外の方への電話は、先方に迷惑がかからないのか。
	○家族や馴染みの人の訪問支援	1 見舞いなどペン自筆で使用している等々や使い慣れている		

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居時になるべく自宅で使用していた単司や使い慣れているものを持ち込んでいただいている。リビングや個室での面会、場合により別棟での話し合い等も出来るように場所を確保している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に抑制は行っていない。しかし夜間にベッドから落ちてしまう方のみ、ご家族様同意のもとベッド柵を使用し転倒防止を図っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の方の中には離設してしまう方も居られる為、通常はなるべく鍵をかけないが、受診等で職員が少なくなる場合は危険防止の為、鍵をかけている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中や夜間帯に巡回を行ったり、外へ出る時は必ず職員が付き添う、声をかけていくことで、利用者がどこにいるかを全員で把握できるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居時になるべく自宅で使用していた筆筒や使い慣れているものを持ち込んでいただいている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	提携病院からの指示により服薬管理を行い、緊急の場合の対応、服薬等も医師と連絡をとり、支持の元服薬を行っている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている			後日消防での救急講習に参加し、特変時の対応に備える。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			後日消防の立会いの下、消防訓練を行う。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に重要事項説明、契約書の説明を行い、緊急時の病院搬送等について同意を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の記録をとり、体調に変化のある場合は日勤者から夜勤者に報告。経過を観察すると共に必要に応じて医師へ連絡している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携病院からの指示により服薬管理を行い、緊急の場合の対応、服薬等も医師と連絡をとり、支持の元服薬を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分を取れるよう、必要に応じてトロミをつけたり、甘みをつける等の工夫をし脱水にならないように心がけている。体の動かす事を嫌う方は、なるべく入浴回数を増やし、身体を動かす機会を多くしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝、夕食後に口腔ケアを行っている。必要に応じて歯科受診をしている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ひとりひとりに合った食事の形態(キザミ食、ミキサー食)やトロミを付ける等、摂取しやすい工夫を行い、なるべく本人が自分で安心して食べられるように支援している。夜間はなるべく補水を行い、脱水にならないよう注意している。		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザは必ず予防接種を行っている。また感染症が出た場合はマニュアルに沿って対策を行い、必要に応じて市や保健所に報告を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	提携病院からの指示により服薬管理を行い、緊急の場合の対応、服薬等も医師と連絡をとり、支持の元服薬を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花を置いたり、近日に行ったイベント等の写真を貼ることで季節感を味わっていただいている。		あまり近隣の方の出入りが無い。自治会の方が野菜等の持込やイベントの飾り物を貸して下さる程度。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を置いたり、近日に行ったイベント等の写真を貼ることで季節感を味わっていただいている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は全室個室。トイレも各部屋に完備し、プライバシーも守られている。リビングのソファでのおんびりとした時間も過ごせているようである。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になるべく自宅で使用していた筆筒や使い慣れているものを持ち込んでいただいている。		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>起床時に窓を開けて換気を行ったり、トイレに消臭剤を置く事で解消している。入浴前は暖房を入れ、浴室との温度差がなくなるよう注意している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりや福祉用具の搬入により、なるべく不自由の無いような対応をしている。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>居室やトイレが分からない方は張り紙を張ったり、居室まで職員が誘導する事で混乱を防いでいる。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>中庭で野菜を栽培して、水やりや収穫を利用者と共に行っている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)